着任のご挨拶

副理学療法士長　**楠　川　敏　章**

平成27年４月１日付で七尾病院リハビリテーション科副理学療法士長に着任致しました楠川敏章です。よく誤って呼ばれることがありますが「敏章」は「としあき」ではなく「としふみ」ですのでお願い申し上げます。

私は三重県南部の出身で、国立療養所東名古屋病院附属リハビリテーション学院（当時）を卒業後、名古屋市内で一般的な入院・外来リハビリテーション（以下リハと省略）、制度開始直後の介護保険分野での訪問リハ・通所リハを経験した後、平成12年11月に当時の国立療養所三重病院に着任致しました。以後、国立病院機構発足を跨ぎつつ、国立豊橋病院（当時）→東名古屋病院→静岡富士病院→静岡てんかん・神経医療センター→東名古屋病院附属リハビリテーション学院と東海・北陸グループを渡り歩き現在に至ります。かつての同僚からは残り２県（富山県・岐阜県）で国立病院機構の東海・北陸グループ内全県制覇だと鼓舞（揶揄？）されております。ですが、この経歴故に脳血管障害・運動器・呼吸器・循環器・小児発達分野を始めとする急性期～回復期リハを始め神経難病やてんかん，重症心身障害児（者）のリハさらには入院・外来・在宅問わず幅広く対応できるのが私のセールスポイントとなっております。今後も様々な分野のリハに対応できる理学療法士を目指し日々努力すると共に、教育職を含むこれまでの経験を活かしリハ科に新たな風を吹かせたいと考えております。どうかよろしくお願い致します。

それで、この七尾病院に着任して私がまず感じたことは、スタッフの皆が医療の質の向上を意識していることが挙げられます。まだ、病院の運営において私に見えていることは少ないのかも知れませんが、リハ科に関連する部分だけでも患者さまのカンファレンスの充実（ここまでキッチリ執り行っている病院は初めてです）や、リハ科の業務の評価・分析・改善策の立案においても単なる数字上の成果に捕らわれないところ（とかく数字だけに拘って医療の本質を見失いがちなところもありますので）など、本当に恵まれた環境だと日々感じております。

さて、そんな恵まれた環境の中だからこそ、リハ科が果たさなければならない責任も大きいと思います。当院のリハ科の人数は昨今のニーズに合わせ急増（現在リハ３職種で16名）したところであります。その中で多くのスタッフは若く、経験も浅く、他の施設の環境も知り得ない状況にあります。そのため、今も多くの皆さまに支えられており、至らないところや未だ充実しているとは言えないことが多々あります。だからこそこれから多くのことを吸収し、学び、リハ科を発展させ、地域医療に貢献する七尾病院の一翼を担えるよう、努めなければなりません。ですから、リハ科にご要望あるいはご指導がありましたらどんどんお寄せ下さい。リハ科一丸となって、すぐに改善できることはすぐに行い、すぐに改善できないことは一つ一つ着実に改善に近づけるよう何らかのアクションを起こせる、フットワークの軽いリハ科を目指して参ります。また、病院の行事や地域の皆さまへの出前講座，外部の研修などにも積極的にスタッフが出て行く開かれたリハ科でありたいとも考えております。その中で、今後様々なご提案や新たな取り組みについても発信して参ります。今後ともどうか七尾病院リハビリテーション科をよろしくお願い致します。